

知的財産事例

株式会社エンジニア

技術とブランド、双方を両立した『ネジザウルス』 独自の「MPDP」理論の生みの親として、知財を事業に組み込んだ

事業内容

1949年設立
作業工具の製造・販売

知的財産権と内容

特許第6820493号	挟持工具
特許第6301537号	ネジ抜き工具
実用新案第3237866号	先端工具の保持構造
商標第5412932号	ネジザウルス, ザウルス, サウルス
商標第5377743号	ネジザウルス (ロゴイラスト)

他 特許権6件、意匠権14件、商標権35件

(2025年2月現在)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



作業工具の製造・販売一筋70年 顧客目線の開発により『ネジザウルス』が大ヒット商品に

当社は「双葉工具製作所」として1948年に創業。独自に開発した作業工具の製造・販売一筋で事業を進める中で、早くから知的財産権の取得を意識し、1956年には製品ブランド『エンジニア』の商標登録を行っている。高崎社長は大手造船会社に勤めたのち後、後継者として当社に入社。当初より精力的に新製品を開発したが、はじめはなかなか売上に繋がらず、どうすれば新商品が売れるのかと長年悩み続けたという。しかし、大学時代から機械工学を専門として培われたノウハウや発想力をもとに、顧客目線を取り入れながら試行錯誤を重ね、現在の主力製品である『ネジザウルス』に辿り着いた。これはシリーズ累計販売1千万本に迫る大ヒット商品となり、「一家に一本ネジザウルス」として、高崎社長自ら展示会やYouTubeなどでその魅力を積極的に発信。現在はターゲット層を広げるため、女性向けの製品の展開も検討している。

4代目で生まれ変わった『ネジザウルス』をもとに 独自の「MPDP」理論を生み出した

当社の代表的な製品である『ネジザウルス』は、頭が潰れてドライバーでは回せなくなったネジを簡単に取り外す事ができる。潰れたり錆びたりしたネジも簡単に掴める、先端の「コマネチ角度」が特徴で、高崎社長は発売当初から2代目、3代目と改良を続けながら安

定した売上を維持してきたが、4代目の作成にあたり、顧客に不満点や要望などをきめ細やかにヒアリングしたことが功を奏し、飛躍的なヒットに結び付いた。

「グリップ改良等は多数のご意見をいただいたが、トラスネジを外せるようにして欲しい、といったご意見は少数であった。こうした少数のご意見にはどう対応するか迷ったものの、ご意見のほとんどをしっかりとカバーしたからこそ、顧客の潜在需要にも響いたのだと思う」と高崎社長は語る。この時、ニーズの幅広さについて深く考える機会となり、アイデアの創出や知財の取得・活用に偏ることなく、マーケティングをもとにプロモーションを想定した上で開発することの大切さを学んだそうだ。この成功体験を分析した結果生み出されたのが「MPDP理論」である。これは「M（マーケティング）、P（パテント※知財）、D（デザイン）、P（プロモーション）」の頭文字を取ったもので、高崎社長が商品開発において重要な理論として独自に編み出し、商標も取得した理論である。今後もこの理念に基づき、アイデア力や知財の活用、営業活動など複合的な要素を踏まえて開発を進めていく方針だ。

社員の半数が知財の専門資格を取得！ スムーズな知財戦略を実現

高崎社長は、弁理士と初めて知財に触れる経営者の関係を「2階にいる弁理士が、1階にいる経営者にビールを注ごうとするようなもの（通称・2階からビール）」

とユニークに例える。これは「認識や情報の齟齬を防ぐには、経営者側が“2階”まで行けなくとも、“階段の踊り場”まで行けるくらい知識を身につけ、ビールがグラスに入る距離まで近づくのが一番だ」という意味だ。こうした考えのもと、当社には知財を専門とする部署は置かれていないが、社長を含めた社員約40名のうち、半数近くが「知的財産管理技能検定」に合格している。当社では入社後の資格取得を推奨しており、検定料の補助をはじめ合格祝い金の贈呈など、様々なサポートを行っているという。こうした取組みにより、従来は社長が率先して関わっていた知財取得までの相談や作業を、従業員にも任せられるようになり、以前よりもスムーズに開発を進められている。また、企画の段階から、権利化や他社による権利侵害の抑止に向けた知財戦略を含め、効率的な話し合いができるようになったのも大きな変化だという。

過去には他社から 権利侵害を指摘された経験も…



長年、知財活用に積極的に取り組んできた当社だが、過去には苦い経験もある。ネジザウルスの発売当初、アメリカの企業から突然、「ネジザウルスのグリップカラーが、自社の色彩商標を侵害している」と申し立てを受け

たのだ。これにより、グリップを当時使用していた色から変更することを余儀なくされた。この事案は、色彩もカラートレードマークとして権利化できると知る契機となり、「改めて、商標や意匠も踏まえた戦略が重要と理解した」と高崎社長は話す。また、申請前の入念な調査の重要性を認識したことも、その後の製品開発や知財取得に活かされているという。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ



「知的財産は、会社の発展において不可欠と考えている」と高崎社長は話す。「社員にとっても、自分がアイデアを出した製品が権利化され、会社に貢献できるというのは大きなモチベーションとなるはずだ。そういう意味では、社員を輝かせるツールと言えると思う。企業の成長や社員の向上心に働きかけるために、知財戦略を積極的に取り入れるべきだ」と続けた。また、「中小企業だからこそ“パテント”がカギとなり、特許や商標、意匠、実用新案などをうまく活用することで競争力を高められる面も大きい。まずは“知的財産管理技能検定”の取得などを通じて、基本的な知識を身につけることを勧めたい」と併せて語った。



『ネジザウルス』は定番から“ゲンバ女子”に向けたデザインまで、多種多様な需要に対応



取得が難しいとされる、防護標章登録証と立体商標の登録証



知的財産活用のポイント

長年の知財戦略が実を結び 2022年に「著名商標」として防護標章も取得

当社の場合、高崎社長自らが基本的な知識の習得から始め、社員とも意識を共有したことで会社全体が丸となり知財戦略を策定・実行できる環境が築かれているのが特徴的だ。高崎社長は「資格を取得すると専門的な話を理解できるようになるため、INPITや弁理士が主催するセミナーへの見識も深まる」と話す。

また、長年真摯にブランドに向き合い続けた結果、近年では『ネジザウルス』が「著名商標」および「防護標章」として認められた。「著名商標」は、名称が非常に広く知れ渡っているために、非類似の商品や役務においても影響力が強いものを認定する制度で、「防護標章」はその著名商標を防護する制度だ。今後は海外需要を見込み、国際特許も積極的に取得しながら模倣対策等に力を入れていきたいという。

COMPANY DATA

取材：2025年2月

企業名：株式会社エンジニア 所在地：大阪府大阪市東成区東今里2-8-9 電話番号：06-6974-0028

URL：<https://www.nejisaurus.engineer.jp/> 創業：1949年 資本金：5500万円 従業員：40名

